

開倫塾 塾生・保護者各位

No. 9 「読書の習慣を身に着けよう」

「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」で「学習習慣」を身に着けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 1 : どのような本を読んだらよいのですか。

- A : (1) 学校の各教科の教科書で紹介している本が、おすすめ本の第 1 です。この本だけは読んでほしいという代表的な作品を、各教科書の編集者が選び抜いて紹介しているからです。
- (2) 御家族の方、開倫塾や学校の先生がおすすめしている本が、おすすめ本の第 2 です。自分が読んだ本の中で、この時期の皆様には是非、読んでもらいたいと考えて推薦して下さるものだからです。
- (3) 学校図書館や公共図書館に置いてある本が、おすすめ本の第 3 です。どちらの図書館にも、図書館の専門家である図書館司書の先生が選んでくださった本が、わかりやすく分類されて置いてあるからです。
- (4) 新聞や雑誌、TV やラジオ、インターネットなどで紹介された本の中にも、おすすめの本があるかもしれません。1つ1つのメディア(媒体)の信頼性をよく考えて、参考にしてください。
- (5) 書店に行き、直接本に触れ、内容を見て、読むか読まないか、買うか買わないかを決めることも大いにおすすめします。(ただし、お金に余裕があればですが…)
- (6) 本屋さんの中には、「ブック・オフ」など中古本専門の本屋さんもあります。時々中古本の本屋さんに出掛け、読みたい本を選ぶのも面白いと思います。
- (7) 友達や知り合い、親せきなどの持っている本を借りることもあるかもしれませんが、返し忘れたり、傷つけたりすることもあるので、できるだけ、本の貸し借りは避けることをおすすめします。

Q 2 : どのように本を読んだらよいですか。

- A : (1) 読書の仕方には「スピードをどんどん上げて読む」「速読」と、「じっくりと腰を落ち着けて、一語一語かみしめながら読む」「精読」の 2 つがあると私は考えます。
- (2) スピードをどんどん上げて読む「速読」は、推理小説や冒険小説、歴史小説などに向いた本の読み方で、面白くてわくわくし、爽快感の連続となります。

(3)人生とは何か、ものごとの本質とは何か、歴史や社会、経済、文化の真相とは何かなど「本質的内容」についての本は、スピードをどんどん上げて読む「速読」では何が何だかさっぱりわかりませんので、じっくり一語一語丁寧に「著者と時空を超えた対話」をするようなつもりで行う「精読」が向いています。

(4)「速読」と「精読」、この2つの読書の仕方をうまく組み合わせ、自分なりの読書の仕方を考えることをおすすめします。

Q 3 : 本は一体何回読むのがよいのでしょうか。

A : (1)簡単な本は1～2回、大切な本は時間をじっくりかけ、間をかなり空けて5～6回は読むことをおすすめします。

(2)論語や般若心経、聖書など、毎日声を出して読むに値する本もたくさんあります。

(3)優れた本ほど、読むたびに新しい何かをその中に見出すことができます。新しい自分自身をその中に発見することができます。これぞという本は毎日でも読む。毎日、何回も読みましょう。

Q 4 : 本を読んで身に着くものは何ですか。

A : (1)本を読んで身に着くのは、深く考える力、つまり「思慮深さ(しりょぶかさ)」と、自分自身を振り返る心、つまり「自省(じせい)心」だと私は考えます。

(2)著者との時と場所を超えた対話(時空を超えた対話)を本を読んで行う。それにより、「ああ、そうか。このような考え方、生き方もあるのだ」という新しい発見をすることができます。深くものごとを考える力、「思慮深さ」や、振り返る心、「自省心」を育むことができます。

(3)本よく読む人は、ものごとを深く考える、ことばに重みがある、思慮深さ、自省心があるといわれるのは、このような理由からです。

Q 5 : 本を読むこと、つまり、読書は学校の勉強や受験勉強に関係があるのですか。読書は学校の成績や入学試験に関係があるのですか。

A : (1)オー、きましたね。答えは、関係があり、大いに関係があります。本を読むこと、読書は、学校の勉強や入試そのものだと私は確信します。信じて疑いません。

(2)なぜか。本を読めば読むほど、本格的な読書をすればするほど、本を正確に、又、論理的・分析的に読む力がどんどん身に着くからです。読むスピードも当然上がります。

(3)この本格的な読書で、難しい内容が含まれる教科書や教材、定期試験や模擬試験、入学試験や資格試験の大量の文章を、正確に分析的に読み解く力、「読解力」を身に着けることができます。試験時間内に読み切るスピードも身に着きます。

(4)この「読解力」こそ、学校での勉強や入学試験に向けての受験勉強で最も求められるものです。特に、試験時間内に問題文・設問・選択肢などすべてを読む力が求められます。

(5)学校の各教科の出題予想問題を用いた定期試験対策・要約教材や過去問などを用いた入試対策のときに、長文化しつつある試験問題を時間内に正確に、分析的に読み解くことのできる「読解力」が不足しては、いくら勉強してもよい点数、合格点は取れません。そうであるからこそ、開倫塾では「辞書」「新聞」「読書」を活用して、学校の勉強や定期試験・模擬試験、トップ校・難関校を含む第1志望校の入学試験にも耐えられる「読解力」を身に着けようと、創業以来40年間訴え続けているのです。

Q6：「辞書」「新聞」「読書」を活用して、学校の勉強や定期試験・模擬試験、トップ校・難関校の入学試験にも耐えられる「読解力」を身に着けようとはどういうことですか。

A：(1)①例えば、皆さんが病気にかかったときに、近くのクリニックや急性期の患者のための大きな病院を訪ねたとします。

②診察や検査をして、必要な手当て、手術、薬の処方をして頂くだけで病気は完治するかといえば、否(いな)です。

③十分な休養、十分な栄養、十分な睡眠、適度な運動、リハビリ、気分転換などが必要です。お医者さんによる手当、手術、薬の処方以外に必ず守って行わなければならないことがたくさんあります。一定の期間、口にしてはならない食べ物もあります。成人であれば、アルコールやタバコは絶対禁止の病気もあります。

(2)「辞書」「新聞」「読書」を活用して「読解力」を身に着けることは、病気になったときにお医者さんによって行われる手当、手術、お薬の処方以外にしなければならないことと全く同じです。そのように考えてください。

(3)定期試験対策や入学試験対策だけしてても、「読解力」なしでは入学試験はもちろん、定期試験や模擬試験でもよい点数は取れません。

(4)言い換えれば、定期試験でよい成績を取り、模擬試験でよい偏差値を確保し、入学試験でトップ校・難関校を含む、入るのが難しい学校に合格しければ、「辞書」「新聞」「読書」を毎日活用して「読解力」を身に着けることに励むことです。

(5)カバンの中には、常に「辞書」と昨日の「新聞」(高校生は「英字新聞」も)、お気に入りの本を1冊入れておき、折に触れて慣れ親しみ、最大活用することです。この3つは「読解力」を身に着けるための「三種の神器(さんしゅのじんぎ)」です。

(6)特に受験学年を迎える塾生の皆様は、これから1年間、「辞書」「新聞」「読書」を最大活用すれば、驚くほどの「読解力」が短期間に身に着き、全塾生の皆様がトップ校・難関校を含む第1志望校に合格を果たすことができます。合格後も「辞書」「新聞」「読書」の活用を継続すると、素晴らしい学校生活が送れます。是非、挑戦を。

保護者の皆様も、是非、この「読解力」の重要性を御理解頂き、御協力ください。

明日はいよいよ No.9「効果の上がる学習方法を身に着けよう—開倫塾の「学習の3段階理論」とは一」のお話です。お楽しみに。

以上